

## 平成16年度 第2回比屋根湿地・泡瀬地区海岸整備専門部会

日時：平成17年3月7日（木）13：30～16：30

場所：沖縄市福祉文化プラザ 2F交流ホール

出席者：仲宗根座長、新城委員、吉田委員、赤嶺委員、桑江委員、島袋正一委員、  
島袋幸吉委員、宮城委員、普久原委員、（欠席：中村委員）

### 議事概要

前回専門部会、委員会における指摘事項とその対応について

- ・地域毎の下水道接続状況について、個人情報保護に配慮しつつ、できるだけ詳細な区分けで下水の接続率や水質の現況についてとりまとめ、市の広報等による地域の啓発活動に活かすべきである。

泡瀬地区の現況特性について

- ・かつて周辺地域にマングローブが繁茂していた事を踏まえて、環境利用学習での利用の観点も含め、マングローブやヨシの植生の今後のあり方について平成17年度の詳細調査を踏まえて検討する。
- ・人口特性の説明において、「人口増が東部地区に集中」という文言があるが、数値で説明することとする。
- ・東部地区にはまだスペース的に人口増の余力があることから、今後の人口推移について、行政連絡会の場で都市計画等を勘案し予測することとされた。

問題点、課題の抽出及び整備の基本方針について

- ・以前は各所に湿地があり、自然のろか機能が強かったが、これを比屋根湿地で受け止めるためには、比屋根湿地の浄化能力を発揮するための工夫が必要である。
- ・水路は蛇行し緩やかに流れることで流域が伸び、浄化作用に極めて効果がある。先進事例等を参考にしながら、今後の排水路の整備のあり方を検討することとされた。
- ・雨水排水路の整備を検討する上で、大潮の満潮時、台風時等のデータを入手することが必要である。
- ・観察施設を含む野鳥園の整備は人工島での計画が中心となるが、比屋根湿地での野鳥観察施設が実現可能か、県・市の関係課で検討することとなった。
- ・マングローブは湿地内における生態系の重要な役割を担っていることを踏まえて、現地調査をした上で基本方針に組み入れて欲しい。
- ・基本方針については上記項目を踏まえて、了承された。

比屋根湿地及び泡瀬地区海岸の現地調査計画（案）について

- ・調査項目について、底質のORPを測定すること、最満潮時における湿地内の海水の侵入状況を把握する。
- ・比屋根湿地前面の市道について、海水交換の向上可能性を検討することになった。
- ・湿地内の植生図については、平成17年度の詳細調査を行い、精密な植生図を作成する。
- ・毎木調査については、他の調査を活用する。
- ・現地調査計画については、上記項目を追加して了承された。